

まちで出会う音楽とアート

ASSEMBRIDGE
NAGOYA

MUSIC / ART / MINATOMACHI

ASSEMBRIDGE NAGOYA

2017 アssenブリッジ・ナゴヤ 2017

2017.10.14 Sat. - 12.10 Sun.

会期中の木曜、金曜、土曜、日曜開催 Open Thursday to Sunday

会場 | 名古屋港～築地口エリア一帯

VENUES | Around the Nagoya Subway TSUKIJIGUCHI Station to
NAGOYAKO (Port of Nagoya) Station area



ASSEMBRIDGE
NAGOYA
2017

www.assembridge.nagoya

参加アーティスト

クリストフ・コンツ(ヴァイオリン)

〈公演番号6〉

1987年、ドイツはコンスタンツのオーストリア=ハンガリー系の音楽一家に生まれる。4歳よりヴァイオリンを始め、そのわずか2年後にウィーン音楽大学へ入学、エウゲニア・ボラツェックに学ぶ。ウィーン音楽大学、ザルツブルク、グラーツでヨーゼフ・ヘルム、イゴール・オジム、ボリス・クッシュニールに師事し、またウィーンで指揮をマーク・ストリンガーに学ぶ。ダニエル・バレンボイム、ダニエル・ハーディングのマスタークラスによって、彼の音楽的教養はさらに豊かなものとなった。そして2008年、20歳の若さで、ウィーン・フィルハーモニーの第二ヴァイオリン首席奏者に就任する。

12歳の時、シャルレ・ドウトイシャルル・デュワ指揮、モントリオール交響楽団との共演にて北米でのソロデビューを果たし、サー・ネヴィル・マリナー、ドミトリー・シツコヴェスキー、スコヴェツキー、ガボール・タカックス、ナギータカーチ、ナジ、マーク・ミンコウスキー、マルク・ミンコフスキといった指揮者、またレムジエン・ドゥルーブル、ルーヴル宮音楽隊等のアンサンブルや、栄誉あるセント・マーティンアカデミーとの共演へと繋がった。こういった功績が、ヨーロッパから中東、アジア、オーストラリア、そして北・南米にまで亘る多数の国でのさらなる活躍へと彼を導いた。

室内楽奏者としてだけでなく、クリストフ・コンツの音楽パートナーには、レオニダス・カヴァコス、ジョシュア・ベル、ヴィルド・フラング、レナウド・カプコンカプソン、アントイン・タメスティット、キム・カシカシアン、ガウティエル・カプコンゴティエ、カプソン、ルドルフ・ブッフビンダーがいる。また彼は、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の団員で、引っ張りだこのチェリストである兄、シュテファン・コンツとも頻繁に共演している。彼らは兄弟共に、ヨーロッパ青年音楽賞の奨学生である。



クリストフ・コンツ

アンナ=マグダレーナ・コーキッツ(ピアノ)

〈公演番号6〉

ウィーンに生まれ、4歳よりピアノを始める。その僅か4年後に、後にウィーン・コンセルヴァトワールを修めるまで共に学ぶことになる、素晴らしい師アレジャンドロ・ゲベローヴィチに出逢う。数々の国内外のコンペティションの勝者として、彼女は10代の間に、トーンキュンストラ管弦楽団やモスクワ・ヴィルトゥオーゾとの共演でソリストとして瞬く間に注目を集めた。ソロとしての経歴を積む中、彼女は、ヨーロッパ中のフェスティバルにて常連そして人気のゲストとなり、また室内楽を主たる活動の一つとするようになる。2007年から2014年にかけては、ヨーロッパ各地の主要コンサート開催にて演奏するチェリスト、アレクサンダー・ゲベルトとデュオを結成し、ハンス・ガル、エルンスト・トツホ、エーリッヒ・ツァイスル、カール・ヴァイグルのソナタを録音した。

アンナ=マグダレーナ・コーキッツは多くのヨーロッパ諸国、アジア、北アメリカ、中東にてソリスト、室内楽奏者として活躍しており、しばしばそのコンサート・ツアーと併せて後進のためのマスタークラスを実施している。

また継続的に現代音楽に挑戦しており、指揮のリヒャルト・デュンスター、トマシュ・スクウェレス、ヘルムット・シュミディンガー、トーマス・ラルヒャー、HK・グルーバー、クリストフ・レンハルト、ルーカス・ハーゼルベック、マニエラ・ケレル等と密に協力し、いくつかの作曲の依頼もしている。一般的なレパートリーに加え、あまり知られていない、または忘れ去られた作品にも特別な関心を向けており、エルンスト・トツホのピアノソロ・ピースの録音は、2017年6月にカプリッチョ・レーベルよりリリースされた。



アンナ=マグダレーナ・コーキッツ

参加アーティスト

渡辺美穂 (ヴァイオリン)

〈公演番号8〉

現在は国内各オーケストラのゲストコンサートマスター、ソロ、室内楽と幅広く取り組む。東京藝術大学附属高校から同大学、大学院修了。2006年より東京フィルハーモニー交響楽団、また2012年に大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任し、2014年まで務めた。



渡辺美穂

川上裕司

川上裕司 (ヴァイオリン)

〈公演番号8〉

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。アッセンブリッジ・ナゴヤ2016に「今夜だけクインテット2016」メンバーとして出演。名古屋フィルハーモニー交響楽団2ndヴァイオリン首席奏者。

松谷阿咲 (ヴァイオリン)

〈公演番号8〉

4歳よりヴァイオリンを始める。早稲田大学商学部卒業後に渡仏し、フランス国立ヴェルサイユ音楽院最高過程に入学。同音楽院卒業後ウィーンに渡り、ライナー・キュッヒルに師事。2011年より名古屋フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者。



松谷阿咲

西村洋美

西村洋美 (ヴァイオリン)

〈公演番号8〉

愛知県立明和高等学校音楽科、東京音楽大学卒業。桐朋学園大学院 (修士課程) 修了。第10・13回日本演奏家コンクール最高位受賞。現在、愛知県立明和高等学校音楽科講師。セントラル愛知交響楽団契約団員。

石橋直子 (ヴィオラ)

〈公演番号8〉

5歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。卒業後ヴィオラに転向。同研究科修了。2004年まで桐朋オーケストラアカデミー嘱託演奏員。兵庫芸術文化センター管弦楽団フォアシュペーラーを経て現在名古屋フィルハーモニー交響楽団首席ヴィオラ奏者。名古屋市立菊里高等学校、愛知県立芸術大学非常勤講師。



石橋直子

小泉 理子

小泉 理子 (ヴィオラ)

〈公演番号8〉

武蔵野音楽大学を卒業後、洗足学園音楽大学大学院修了。ヴィオラを、シャンドール・ナジ、岡田伸夫の両氏に師事。現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団ヴィオラ奏者。

幸田 有哉 (チェロ)

〈公演番号8〉

ベルリン芸術大学及び同大学院卒業。チェロをこれまでに毛利伯郎、マルクス・ワーグナー、マルクス・ニコシュに師事。現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団に所属。



幸田 有哉

山際奈津香

山際奈津香 (チェロ)

〈公演番号8〉

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。同大学院修了。桑原賞、中村桃子賞受賞。第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位。中島頭、天野武子、河野文昭の各氏に師事。愛知県立芸術大学非常勤講師。愛知室内オーケストラ、ザ・ストリングス名古屋メンバー。

参加アーティスト

野田清隆(ピアノ、指揮)

〈公演番号15〉

ブラームスと20世紀作品のリサイタルにより東京藝大で博士号。日本音楽コンクール第1位。室内楽はもとより、下野竜也、広上淳一など指揮者からも信頼が厚く各地のオーケストラでソリストを務める。東京学芸大学准教授、ならびに東京音楽大学指揮科特別アドバイザー。



野田清隆

愛知室内オーケストラ

〈公演番号15〉

2002年、愛知県立芸術大学出身の若手演奏家を中心に発足。現在は、国内外で研鑽を積み愛知県ほか東海地方で活躍する演奏家で構成されている。2015年には新田ユリが常任指揮者に就任。より緻密なアンサンブルの追求とともに、北欧音楽の響きの探求にも力を注ぐ。2016年度名古屋市芸術奨励賞受賞。



愛知室内オーケストラ

井上 圭(トランペット)

〈公演番号3、10〉

熊本県出身。2004年東京藝術大学卒業。第20回ヤマハ新人演奏会出演。第75回日本音楽コンクール入選。2006年(公財)名古屋フィルハーモニー交響楽団入団。現在、首席奏者を務める。これまでに、名古屋フィルハーモニー交響楽団、名古屋音大シンフォニックウインズ等とコンチェルトを演奏。The Labor Brass メンバー。大垣女子短期大学、名古屋音楽大学、愛知県立芸術大学、名古屋市立菊里高等学校音楽科各非常勤講師。



井上圭

宮本弦

宮本弦(トランペット)

〈公演番号3、10〉

広島県出身。2009年東京音楽大学を首席で卒業し、第25回ヤマハ管楽器新人演奏会、第79回読売新人演奏会に出演。第6回東京音楽コンクール金管部門第2位、第25回日本管打楽器コンクールトランペット部門第2位、第78回日本音楽コンクールトランペット部門第2位。ソリストとして広島交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等との共演やNHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。これまでにトランペットを松崎祐一、津堅直弘、高橋敦、栃本浩規の各氏に師事。2010年名古屋フィルハーモニー交響楽団に入団。現在首席奏者を務める。The labor brassメンバー。名古屋芸術大学、大垣女子短期大学、愛知県立明和高等学校音楽科非常勤講師。

松田優太(トランペット)

〈公演番号3、10〉

広島県出身。東京藝術大学音楽学部管打楽器科を首席で卒業。同時にアカンサス音楽賞、三菱地所賞を受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程修了(予定)。藝大フィルハーモニア定期「新卒業生紹介演奏会」にソリストとして出演。第19回日本クラシック音楽コンクール第3位。大学在学中、学内オーディションに合格し、藝大フィルハーモニアのメサイア公演に参加。これまでにトランペットを白石実、杉木峯夫、佐藤友紀、古田俊博、栃本浩規、菊本和昭の各氏に師事。2016年10月より、(公財)名古屋フィルハーモニー交響楽団トランペット奏者。



松田優太

参加アーティスト

坂本敦(トランペット)

〈公演番号10〉

福岡県出身。2001年東京藝術大学卒業。第17回ヤマハ新人演奏会出演。第1回小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトに参加。2004年よりスカラシップを得てフィンランドに留学。国立シベリウス音楽院修士課程修了。フィンランド放送交響楽団、ラハティ交響楽団などで契約団員を務める。ラハティ音楽院ウィンドオーケストラとコンチェルトを共演。帰国後、(公財)名古屋フィルハーモニー交響楽団に入団。これまでに、トランペットを故・河辺のぶ子、本村孝二、杉木峯夫、P.Pirinen、A.Heinonen、J.F.Christiansenの各氏に師事。東京アトラクティブ・プラスのメンバー。名古屋市立菊里高等学校音楽科非常勤講師。



坂本敦

上田じん(客員・トランペット)

〈公演番号3〉

京都市立堀川高等学校音楽科分校、東京藝術大学音楽学部卒業。平成21年度新進芸術家海外研修制度(文化庁)研修員としてワイマール・フランツリスト音楽院に留学。早坂宏明、蔵野雅彦、北村源三、UweKomischkeに師事。第69回日本音楽コンクールトランペット部門第一位、併せて松下賞受賞。平成16年度青山音楽賞受賞。2012年東京オペラシティリサイタルシリーズB→C出演。協奏曲を東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、セントラル愛知交響楽団と共演。ソロアルバム「カレイドスコープ」「テレスコープ」「マイクروسコープ」発表。現在、シエナ・ウインド・オーケストラ契約団員、金管五重奏団BuzzFiveリーダー、東京トランペットカルテット、京都トランペットグループサマーシリーズ、trumPETENsemble各メンバー。ズーラシアンプラス、スーパーバイザー。名古屋音楽大学専任講師。洗足学園音楽大学、大学院講師。教則本などの執筆にも力を注ぎ、近年はスタジオプレイヤーとしても活動。CMミュージック、ゲーム音楽、ドラマBGMを始め、TVアニメ「響けユーフォーニアム」の高坂麗奈のトランペットを担当し注目された。



上田じん

安土真弓(ホルン)

〈公演番号3〉

石川県能美市辰口町生まれ。東京藝術大学音楽学部卒業。第77回日本音楽コンクール第2位、ならびに増沢賞、岩谷賞も併せて受賞。ソリストとして、オーケストラアンサンブル金沢、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団等と協演。ホルンを故・千葉馨、松田俊良、金星真、守山光三、松崎裕、石川博達、日高剛の各氏に師事。2005年名古屋フィルハーモニー交響楽団入団、現在、首席ホルン奏者。同朋高等学校、名古屋音楽大学非常勤講師。Ensemble Fiebie、The Labor Brass、The Horn Quartett 各メンバー。



安土真弓

田中宏史(トロンボーン)

〈公演番号3〉

山口県出身。武蔵野音楽大学卒業。インディアナ大学P.D.科修了。岡本繁邦、木下利男、J.ドムス、M.D.ステュワートの各氏に師事。2001年名古屋フィルハーモニー交響楽団に入団。2004年より首席奏者。2016年に設立された、名古屋トロンボーン協会の会長も務める。



田中宏史

香川慎二

香川 慎二(トロンボーン)

〈公演番号3〉

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。第23回日本管打楽器コンクールトロンボン部門第2位。神奈川フィルハーモニー管弦楽団契約団員を経て、現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団首席トロンボーン奏者。名古屋芸術大学、菊里高校音楽科非常勤講師。

参加アーティスト

森岡 佐和(トロンボーン)

〈公演番号3〉

京都市立芸術大学音楽学部を卒業後、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団に入団。その後、名古屋フィルハーモニー交響楽団に移籍。平成28年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として、オランダにて一年間研鑽を積む。



森岡佐和

小幡 芳久(トロンボーン)

〈公演番号3〉

桐朋学園大学音楽学部ディプロマ・コース出身。山形交響楽団、サイトウ・キネン・オーケストラを経て、1994年名古屋フィルハーモニー交響楽団入団。現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団バストロンボーン奏者、名古屋音楽大学講師。



小幡芳久

三角顕史

三角顕史(客員・チューバ)

〈公演番号3〉

高知県出身。京都市立芸術大学を歴て、同大学院音楽研究科修士課程を修了。若い人のための「サイトウキネン」室内楽勉強会に参加。財団法人ヤマハ音楽振興会ヤマハ音楽奨学金2009年度授与対象者。

チューバを武貞茂夫、次田心平、ロジャー・ボボの各氏に師事。

現在、日本各地のプロオーケストラの客演や室内楽、ソロなどを活動している。

佐々木杏子(キーボード)

〈公演番号10〉

名古屋市立菊里高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部ピアノコース卒業。同大学卒業演奏会に出演。同大学院博士前期課程修了。在学中、大学の推薦により(財)北野生涯教育振興会音楽奨学金を受ける。日本ピアノ教育連盟主催第23回ピアノオーディション全国大会出場。第17回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。第16回フッペル鳥栖ピアノコンクール入選。愛知県立芸術大学元客員教授デヴィッド・ノーラン氏のヴァイオリンリサイタルにてR.シュトラウス作曲ヴァイオリンソナタを共演。第15回万里の長城杯国際音楽コンクール優秀伴奏者賞受賞。野平一郎氏による「静岡音楽館AOI ピアニストのためのアンサンブル講座」第12期受講生。名古屋にてソロリサイタル開催。ムルハルト国際ピアノアカデミー(ドイツ)に参加、ディプロム取得。選抜された受講生による修了コンサートに出演。SMBCパーク栄「愛・知・芸術のもりからソロにて出演。これまでに吉田雅子、白石英統、内藤江美、佐藤俊、掛谷勇三、ラルフ・ナットケンパーの各氏に師事。現在、東海地方を中心にソロ、室内楽、器楽・声楽・合唱伴奏等の各分野で活動するほか、後進の指導にもあたっている。名古屋学芸大学ピアノインストラクター。



佐々木杏子

木須康一(ピアノ/チェンバロ/パイプオルガン/チェレスタ/ピアノ/歌) 〈公演番号2〉

幼少の頃よりピアノを始め、名古屋音大在学中よりホテルやラウンジ、シャンソニエでの演奏を始める。NHK「さらさらサラダ」番組出演をはじめ、名古屋二期会、オーケストラ・アンサンブル金沢、菅原洋一、奥田晶子らとも共演。クラシックはもとより、多くのジャズ、シャンソン、タンゴなど様々なミュージシャンと共演し、信頼を集めている。自ら歌い、歌手に寄り添う伴奏で、常に比類な独自の感性を発揮し続けている。又、音楽療法サポートミュージシャンとしても、バリアフリーな人柄と、タイムリーな即興性で、数々の講演を支え関係者の信頼を得ている。



木須康一

参加アーティスト

吉田次郎 (ギタリスト)

〈公演番号12〉

福岡生まれ、5歳でピアノ、6歳でギターを始める。大学入学と同時にプロ活動を始める。1983年渡米。バークリー音楽院に奨学金を得て渡米。卒業後は同学院講師を務める。1990年よりNYに活動の居を移し本格的に始動。ポールマッカートニー、シンディローパー、ブレッカーブラザーズ、等のレコーディング、ツアーサポートをこなす。これまでに参加したアルバムは1万枚以上に及ぶ、また記録映画の部門で2度グラミー賞にノミネート。2003年国連WAFUNIF親善大使に任命される。現在NYを中心に日本、ヨーロッパと多忙な日々を送っている。2015年4月、ソニーミュージックより《A PASTEL SHADE》がリリース、2016年4月、ソニーミュージックより、マリーン、クリヤ・マコトと吉田の3人名義のバンド『Threesome』が全曲1発録りでDSDレコーディングされたアルバム『CUBIC MAGIC』がリリースされ、2017年8月、同ユニットの2ndアルバム『Whatever!』が発売された。



吉田次郎

クリヤ・マコト (ピアノ)

〈公演番号12〉

高校卒業後渡米し、ウェストバージニア大学にて言語学を専攻。在学中にライブ活動を開始。卒業後はピッツバーグ大学にてジャズ講師を務める傍ら、米東海岸各地で活動。グラミー受賞者チャック・マンジョーネ・グループに参加するほか、多くのジャズの巨匠と共演。帰国後これまで17枚のリーダー作を発表、10回以上のヨーロッパ公演をはじめ、豪州、モロッコ、台湾、エジプト公演も成功をおさめる。学生時代に交流を深めた黒人コミュニティの影響でソウルフル、知的、ロマンティックな音楽性、そして音色の透明感に定評がある。これまでマリーン、SHANTIなどのジャズ作品をはじめ、平井堅、八代亜紀、土岐麻子などのポップスや、TVテーマ曲、CM、映画音楽など幅広い作品を手がけている。2011年、アルバムデビュー20周年を記念し総勢27名のゲストを擁したアルバム「Art for Life」を発表。翌年アニメテーマ・カバー作品「新世紀スタンダード」を発表し、クリヤが継続的にサントラへ参加している『新世紀エヴァンゲリオン』の楽曲もカバー。2013年は人気ミュージカル・ナンバーを収録した「Favorite Musical Jazz 夢やぶれて」をピアノトリオで発表。そして2014年3月、日本・米国・欧州との3ヶ国合同ユニット「Just Music」を日本、ヨーロッパにて発表。同年4月、総勢22名の内外で活躍するアーティストをフィーチャーした大作「ナッシン・バット・ジャズ」を発表。10月にクリヤを1週間フィーチャーしたフェスティバル形式の特別ライブをロンドンで開催。同時にイタリア、ポーランドを含む欧州ツアーを敢行。常に国境をまたいで意欲的な活動を行っている。



クリヤ・マコト

西尾 洋 (作曲・ピアノ)

1977年生まれ。作曲家。ヤマハ音楽教室で4歳よりピアノを、6歳より作曲を始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て同大学作曲科中退。リューベック音楽大学大学院を審査員満場一致の最優秀で修了。現代音楽の作曲と並行して、バロック時代の巨匠バッハにゆかりのあるドイツ・リューベックの地で、オルガン音楽を中心に古い時代の音楽も研究。帰国後は上野学園大学を経て現在東京藝術大学作曲科、ヤマハマスタークラス特別コース講師。日本ソルフェージュ研究協議会理事。作品はバロック以前と現代それぞれの作曲技法を掛け合わせた室内楽曲が中心。著書に「応用楽典 楽譜の向こう側」「鍵盤和声 和声の練習帖」(音楽之友社)がある。



西尾洋

参加アーティスト

島田彩乃(ピアノ)

〈公演番号7〉

桐朋女子高等学校音楽科を首席で卒業。パリ国立高等音楽院、同研究課程、エコールノルマル音楽院修了。文化庁海外留学制度研修員としてライブツィヒ音楽大学にて研鑽を積む。ジャン・フランセ国際音楽コンクール、シドニー国際ピアノコンクール等国内外数々のコンクールにて優勝、入賞。2006年リリースのCD『ドビュッシー／デュティユー／ラヴェル』は作曲家デュティユー氏本人より賛辞を贈られる。2011年帰国。パリ在住時より、ヨーロッパ各国、南アフリカ、チュニジア等各地で演奏活動を行うほか、東京フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、シドニー交響楽団、ヨハネスブルグ交響楽団等オーケストラとの共演、TV・ラジオ出演など、多岐に亘った活動を活発に行う。ソロのみならず室内楽にも精力的に取り組み、国内外アーティストと多数共演、厚い信頼を得ている。また、上野学園大学講師として後進の指導にも力を注ぐ。毎夏欧州のフェスティバルに招かれる等海外でも継続して活動を展開している。



島田彩乃

杵屋六春(長唄)

〈公演番号16〉

1994年東京藝術大学音楽学部邦楽科長唄専攻卒業。2度の名古屋市民芸術祭審査員特別賞受賞 現在は長唄宗家十五世 杵屋喜三郎師(重要無形文化財・人間国宝)に師事。学校教育、後進の指導にも取り組み、名古屋市内立菊里高校音楽科の特別授業や名古屋市内の小学校にて体験授業、名古屋市内小学校トワイライトスクールや土曜学習なども実施。第60回「名古屋まつり」オープニングイベントにめいおん長唄三味線ガールズと出演 あいちトリエンナーレ三回連続「彩祭祀」「Re:Alice」(声のみ)「巡礼」に出演 2015年秋篠宮ご夫妻ご臨席の全国都市緑化祭記念式典にてオープニングアトラクション企画構成出演 名古屋主催のやっとかめ文化祭、名古屋まつり、国民文化祭ウエルカムイベント出演。NHK-FM、CBCラジオ MID-FMなどにも出演。「長唄おやこ会」を毎年開催し長唄の魅力を伝えている。



杵屋六春

海藻姉妹(サクソフォン、キーボード)

〈公演番号17、18〉

わかめ、こんぶ、めかぶ、からなるユニット。第8回下町コメディ映画祭「ビートたけしリスペクトライブ」に出演。第68回さっぽろ雪まつり×札幌国際芸術祭2017『トット商店街』で音楽を担当。CD&DVD「海底演奏会実況盤」をoutonediscよりリリース。現代音楽から祭り囃子、昭和レトロまでを軽々と横断する超絶技巧のユニット。



海藻姉妹

牛島安希子(作曲)

〈公演番号21〉

愛知県出身。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。ハーグ王立音楽院作曲専攻修士課程修了。生楽器・電子音響のための室内楽作品や映像・テキストを取り入れたパフォーマンス作品を制作。作品はノヴェンバーミュージックフェスティバル(オランダ)、アルスムジカ音楽祭(ベルギー)など、世界各地で演奏されている。HP: <https://akikoushijima.com>



牛島安希子

参加アーティスト

寒川晶子(ピアノ)

〈公演番号21〉

音楽家。ピアニスト。音楽による空間づくりに積極的に取り組み、現代美術作品とのコラボレーションや企画など、創作に関わりながら演奏を行う。2016年にはロームシアター京都にてオープニング事業に関わり「ド」音のみのピアノ演奏を発表した。



寒川晶子

亀井庸州(ヴァイオリン)

〈公演番号21〉

2000年ごろから主に同世代の作品初演を中心に活動を開始。ベルギー王立リエージュ音楽院において、20世紀音楽や即興演奏を学ぶ。2007年より拠点を日本へ移し、武生国際音楽祭などへの参加をはじめとした、室内楽、ソロの演奏を中心に活動している。



亀井庸州

角銅真実(パーカッション)

〈公演番号21〉

音楽家・打楽器奏者。マリンバをはじめとする色々な打楽器、自身の声、身の回りの気になるあらゆるものを用いて、演奏・楽曲制作だけにとどまらない、インスタレーション、アートプロジェクトでの作品制作も行うなど、作家としての自由な表現活動を展開している。2017年7月7日、自身初となるソロアルバム“時間の上に夢が飛んでいる”発表。



角銅真実

丸山達也(映像)

〈公演番号21〉

1988年大阪生まれ福井育ち。愛知県在住。記録メディアと身体との結びつきをテーマに、その関係性を探る映像作品を制作。上映・展示・デバイスなど、様々な形態をとる。近年はアール・舞台作品の映像演出を手掛ける。

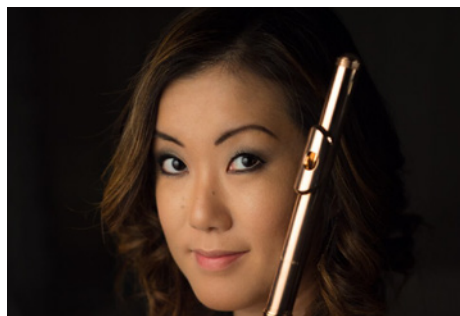


丸山達也

藤井香織(フルート)

〈公演番号1〉

日本木管コンクール・日本管打楽器コンクール・日本音楽コンクール全てで史上最年少1位。ソリストとして国内外で活躍する傍ら、途上国の音楽家に教師育成プログラムを提供するNPO、Music Beyond, Inc.を設立。自らコンゴ民主共和国を訪れ指導にあたっている。NY在住。



江頭摩耶(ヴァイオリン、ヴィオラ)

〈公演番号1〉

愛知県立芸術大学を卒業後、フィンランド国立シベリウスアカデミーを最優秀の成績で修了。ヴァイオリン、ヴィオラ奏者として幅広く活躍中。2015年からモザンビークで活動している。

参加アーティスト

安田祥子(ヴァイオリン)

〈公演番号4、20〉

名古屋市出身。名古屋市立菊里高校音楽科及び、愛知県立芸術大学卒業。同大学院修了。第21回日本クラシック音楽コンクール第5位(最高位)。東海地方を中心に後進の指導にあたるほか、ソロ、室内楽、オーケストラ等各分野で幅広く演奏活動を行う。



安田祥子

金澤みなつ(ピアノ)

〈公演番号4、20〉

愛知県立芸術大学大学院修士課程を首席で修了。大阪国際音楽コンクール公式伴奏者。パリ、ウィーンにてリサイタルを行う。国内外数々のコンクールでの受賞歴を持ち、日本各地様々なコンサートに出演している。



金澤みなつ

水野雄太(サクソフォン)

〈公演番号5〉

名古屋市出身。県立熱田高等学校から昭和音楽大学、演奏家コースを卒業。サクソフォンを真室香代、小森伸二、大森義基、室内楽を有村純親、榮村正吾、松原孝政の各氏に師事。ニコラ・プロスト、ジャン＝イヴ・フルモーマスタークラスを受講。



水野雄太

古川はるな

〈公演番号9〉

静岡市出身。静岡県立清水南高等学校芸術科を経て、東京藝術大学音楽学部を同声会賞を得て卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程、博士後期課程修了。博士後期課程在学中渡仏し、翌年パリ・エコール・ノルマル音楽院高等演奏課程を審査員満場一致で修了。博士論文「クロード・ドビュッシーの音楽詩学—フルート作品の意味論的考察—」により、フランスフルート音楽における国内初の博士号(音楽)取得。静岡県学生音楽コンクール第1位、静岡県演奏家協会会長賞、静岡県教育長賞受賞。静岡県フルートコンクール第1位。国際芸術連盟新人オーディション最優秀新人賞受賞。ソリストとして新日本フィルハーモニー、藝大フィルハーモニア、静岡交響楽団と共演。軽井沢八月祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンに出演。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK ETV「花鳥風月堂」に出演。フランス・オーヴェルニュ室内管弦楽団や国内主要オーケストラにも客演・賛助出演し、レコーディングに多数参加。国内各地での演奏のほか、ヨーロッパ、アジア各地、クルーズ客船等でも演奏を行う。韓国では春川国立博物館、清州国立博物館、在韩国日本大使館広報文化院、鎮川ヒーリングミュージックフェスティバルに招聘される。フルートと箏のデュオ「Lips」では2枚のCDをリリース。また正倉院所蔵の復元楽器を用いた演奏集団「天平楽府」にて横笛を演奏し、シタールや馬頭琴などの民族楽器や天台宗・真言宗僧侶による声明とも共演するなど、幅広い演奏活動を展開している。常葉大学短期大学部音楽科非常勤講師。静岡県学生音楽コンクール審査員。



古川はるな

遠藤綾野(舞踊)

〈公演番号9〉

8歳よりクラシックバレエをはじめ。佐多達枝・河内昭和に師事。師事する佐多作品「カルミナブラーナ」「ベートーベン第9」「ヨハネ受難曲」「Beach」などに出演。オペラでは「こうもり」「ハムレット」「トゥーランドット」などを首都オペラや、あらかわパイロイトで振り付け担当をする。コンテンポラリーダンスでは神村恵、磯島未来、柳本雅寛等に師事、作品にも携わる。ダンサーとして東京文化会館、新国立劇場、神奈川県民ホールなど主要な舞台を踏みつづ、自らも振り付け活動を行い、これまでに「春の祭典」「12階の月」など小作品含む20作品を創作、発表する。現在 静岡県在住。



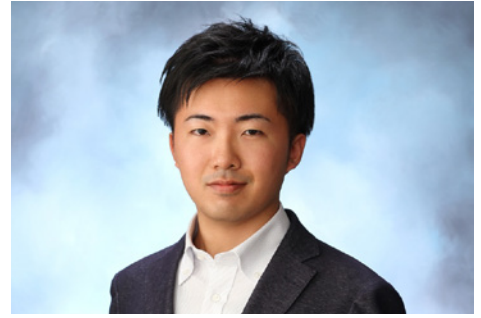
遠藤綾野

参加アーティスト

平手裕紀(ピアノ・トランペット)

〈公演番号11〉

1994年春日井市生まれ。名古屋音楽大学を首席で卒業。CUGJazzOrchestraメンバー。アルバム"FIRST STEP"をリリース。ジャズピアノを水野修平氏に師事。東海ビッグバンドコンテストにて最優秀ソリスト 賞受賞。



平手裕紀

渡辺理沙子(ピアノ)

〈公演番号13〉

名古屋市立菊里高等学校を経て、現在愛知県立芸術大学に在学中。平成28年度派遣留学生としてハンガリー国立リスト音楽院に留学。伊藤仁美、岩田珠美、松本総一郎、エフゲニー・ザラフィアンツ、サボー・オルショヤ、レーティ・バラージュ、バル・ダーヴィドの各氏に師事。



渡辺理沙子

山中惇史(ピアノ)

〈公演番号14〉

東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、同大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。在学中より、漆原啓子、漆原朝子、清水高師、上野耕平、ピエール・アモイヤル各氏をはじめとする国内外の著名な演奏家との共演、又は委嘱を受けるなど、ピアニスト・作曲家として幅広く活動する。アレンジャーとしてもクラシックからポップスまで様々なアーティストを手掛けている。現在、東京藝術大学音楽学部ピアノ科に在学中。



山中惇史

岡崎美奈江(箏)

〈公演番号19〉

箏曲宮城社大師範。名古屋音楽大学邦楽専攻卒業、同大学院音楽研究科修了。在学中、NHK邦楽オーディション合格。2012名古屋市民芸術祭参加リサイタルで特別賞受賞。現在、名古屋音楽大学講師、栄中日文化センター講師。



岡崎美奈江

三輪聡美(箏)

〈公演番号19〉

岐阜県高山市出身。名古屋音楽大学邦楽コース卒業、同大学院音楽研究科修了。愛知県内や地元高山を中心に演奏や指導の活動を行い、洋楽器とのコラボにも積極的に取り組んでいる。



三輪聡美

加藤奏山(尺八演奏家) 〈公演番号19〉

都山流師範。

名古屋音楽大学邦楽コース、同大学院音楽研究科修了。

平成27年度 都山流本曲全国コンクールにて金賞受賞。同コンクールにて文科大臣賞、産経新聞社賞受賞。



加藤奏山

サウンド・ブリッジ 参加アーティスト

寺田町

愛知県出身。旅する歌唄い。特異な「声」と「言葉」。そこには、新しくて懐かしい、弾き語りの源流がある。



寺田町

磯部舞子

五弦バイオリンを抱え、心のままに奏でる。ベチコのお嬢様で親しまれ、遊ぶように物語を紡いでゆくその演奏スタイルで、全国を駆け巡る。



磯部舞子

テニスコーツ

テライショウタ

名古屋市在住。歌とギターのスロユニットGofish、ハードコアパンクバンドNICE VIEW、ギターによる即興演奏、DJ、音楽とスパイスの宴「カレーミーティング」や「カレーとノイズ」の主催など。NICE VIEWとして2009年にUSツアーも敢行。近年のリリースとしてアルバム「NICE VIEW / SOPHISTICATED AND BARBARIAN」、アルバム「Gofish / よかんのじかん」、7インチシングル「Gofish / 肺、ピアノのまわり」、10インチEP「Gofishトリオと柴田聡子」など多数リリースあり。



テニスコーツ

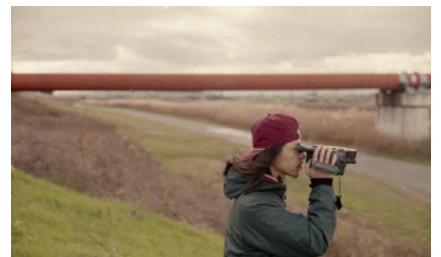
Ett / エット

溪(ギター)と西本さゆり(歌)の二人。

名古屋にて2002年に結成し、ガット・ギターと唄による演奏を各地で行う。

COUP(クー)レーベルより、4枚のアルバムを発表。

1st.「Ett」(ccd-005)、2nd.「テンカラ」(ccd-008)、3rd.「無茶の茶」(ccd-015)、4th.「三笑」(ccd-018)。



テライショウタ

西尾賢

(ピアノ/三味線/歌/作詞・作曲など)

1963年東京足立区(最寄駅は亀有)生まれ。

'86年頃より演奏活動を開始。「ソボブキ」「ズビズバー」を中心に演奏活動を展開している。また実際には存在しない亀有の伝統芸「亀楽(かめがく)」を捏造し、その四代目家元として展示や演奏などの活動を繰り広げている。

<http://sobob.org>



西尾賢



Ett